第 2017-12 号

恵みと真理のニュース

2017 年 3 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 神様がパニック障害と憂鬱症と不眠症を治療してくださり、神様に礼拝して主の献身する幸せで充満なるようにしてくださいました

私は長い間パニック障害と憂鬱症を患いました。ほかの人々からイエス様を信じる人がなんでそんなに憂鬱なのか、不安なのかと考えられるのでもっと酷くおろおろしました。8年前はじめてこの症状があらわれて幻聴が聞こえて後では教会に礼拝を参席するのが大変になるほど状態が酷かったです。不眠症まで酷くなり病院に通って薬を飲んでもきかなかったです。そうする中でも礼拝に行って説教を聴くため努力をしました。ある日は人々が ざわめく声が聞こえてきて、続けて"外に行って何も知らない人を従いなさい。"“家ではあなたを監視するカメラが設置されている。”などの話が聞こえて来ました。実際には誰も話してないですが自分だけ聞こえる幻聴でした。どうしても信じられない状況が続く中で死ぬほど苦しかったです。 教会に行きたいですが行けない状況なので電話をしました。"教会に行きたいけど今、外で私が教会に行けないように塞いでいます。外に出たら私をどこかに連れて行かれるそうです。知らないようにその人々をついて行かなければならないそうです。本当に私が教会に行ったらだめですか？今、私の状況が理解できないです。どうしたらいいですか？区域長がいう通りします。話してください。”すると区域長は"教会に行っても良いし、外に出ても良いです。執事をどこかに連れて行かれる人もいないです。心配しないで教会に来てください。私と一緒に礼拝を捧げて神様に祈りましょう。悪い霊に騙されないでください。” としました。

勇気を出して教会に行き礼拝に参席しました。金曜日祈り会も主日礼拝と月曜祈り会も水曜礼拝まで続けて参席して説教を聴きました。また、当会長の牧師の癒しの祈りをする時は切ない心でアーメンとしました。一時期は不安と怖さで耐えられないほど礼拝時間が長く感じましたが御言葉に恵みを受けて牧師の祈りを受けたくて最後まで我慢して礼拝を捧げました。すると、状態がよくなりました。

そんな状況で GNTCミュージカル “ 携挙”の公演のため俳優とステップを募集しました。私の心は病気の状態でしたが、" わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。“（ フィリピの手紙4：13）御言葉を掴んで大胆に志願して神様の恵みで部隊チームで奉仕することが出来ました。 その後、神様は私の心と体を治療してくださって健康になりました。ミュージカルのため汗をかきながら献身したら、団員達と共に祈って交際しながら毎週ことにミュージカルを見ながら自分も知らずに体が健康になりました。奉仕して講演を見るのが楽しかったです。そして礼拝を捧げる時間と牧師の説教を聴く時間も大変にならなくて真の幸せな時間になりました。

神様はうつ病を癒して下さって不安と怖さ不眠症もなくしてくださいました。主が大きい苦難を通して神様の奇跡の福を下さいました。"あなたの定めを見てわたしは悟ります。それがいにしえからのものであり／あなたによってとこしえに立てられたのだ、と。”（詩編１１９：71）私の証になりました。神様に礼拝を捧げて主の事に献身するのが最高の喜びであり幸せです。今は毎日が幸せです。

主はわたしの光、わたしの救い／わたしは誰を恐れよう。主はわたしの命の砦／わたしは誰の前におののくことがあろう。
彼らがわたしに対して陣を敷いても／わたしの心は恐れない。わたしに向かって戦いを挑んで来ても／わたしには確信がある。(詩編27：1, 3)

ハレルヤ！私の体と心を治療してくださって、大胆な信仰も与えてくださった神様、悲しみが変え喜びになり苦難が変え恵みと福になるように導いた神様に感謝と賛美を捧げます。

［信仰コラム］ 信仰を守りとおした人

"...わたしが世を去るべき時はきた。わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。...” （テモテへの第二の手紙4:6～8）

"信仰を失うと全てを失う"という言葉は真理であります。この信仰は魂の救いを得るようにする信仰を指します。私達の罪を贖ったイエスキリストを各人が自分の救い主として信じ、迎接することです。イエスキリストを信じる人は非常に幸せな人です。しかし、その信仰を守るべきです。本文のお言葉を記録したパウル使徒を見習うべきです。

まず、パウル使徒がどのように信仰を守りとおしたかを調べてみます。"わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。"と話しました。

一番目の部分は、"わたしは戦いをりっぱに戦いぬき"です。キリスト人は不信者達は知らない様々な種類の戦いをしながら生きていきます。サタンとの戦いがあります。サタンは聖徒が礼拝と奉仕、伝道をなおざりに扱うようにして結局は、キリストから離れるようにする目的で脅威と誘惑という方法を使って攻撃します。この世との戦いがあります。"世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。”（ヨハネの第一の手紙2:15、16）と記録されています。自分との戦いがあります。霊的な進歩に欠点になる怒り、我執、傲慢、気早、怠り、嫉妬のような気性を殺すための戦いです。

二番目の部分は、"走るべき行程を走りつくし"です。全ての事の始めは容易くても最後までするのは難しいです。逼迫や苦難があっても途中に諦めてはなりません。この世の誘惑に導かれてパウル使徒から離れたデマスのようになってはなりません。

三番目の部分は、"信仰を守りとおした"です。昔もそうではあったが、末世に至った今日には福音を混雑にする者が暴れています。イエスキリストを信じても聖書に啓示された通りに信じるべきです。聖書のお言葉と異なっていることを話す人々の信仰は無駄なことであります。

次は、信仰を守りとおしたパウル使徒が期待したのが何であるかを調べてみます。"今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。"と記録されています。

第一、"義の冠"とはイエスキリストを信じることで正しくなった者に授与される冠です。ここで述べた"義"は人の努力と行為によることではなく天の法廷で裁判長でおられる神様が"正しい"と宣言なさったことです。人が正しくなることはイエスキリストを信じる信仰によることでありまた、イエスキリストによる恵みによることです。

第二、"義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。"と記録されています。正しいと認められなかった人は神様の前に立つことができなく結局、最後の審判台で審判を受けて火と硫黄で燃える池に投げ込まれるでしょう。従って、正しい裁判長でおられる神様が予備なさった義の冠を私に下さるという信仰で心が騒ぐ期待感を持った人の幸福はこの世の何物にも代えることができません。

第三、このような義の冠がパウル使徒だけに備えられたのではありません。"かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。"と記録されています。イエス様が再びお越しになる時には聖徒を連れに来て、審判のためにお越しになります。"主の出現を心から待ち望んでいたすべての人"に義の冠を授けるでしょう。

人生は誰でもこの世を離れる瞬間を迎ます。この世で生きていく間、たとえ一生が苦難で点綴されたとしてもそしていかなる状況で死を迎るとしてもそのようなことがあまり重大なことではありません。重要なのは私達がいつでも過ごした日を回想して将来を見ながらパウル使徒のように披瀝することができなければなりません。すると私達が生まれた日が幸運の日であり生活した時間が価値のある日々になるでしょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

心が貧しい人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

マタイによる福音書, 5章 1節から 12節までに記録されたお言葉を ‘山上の宝訓’と呼びます。 イエス様が山の上で弟子に教えた貴重な教訓という意味です。
“「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。” このお言葉はイエス様の ‘山上の宝訓’に出る一番目のお言葉です。 ルカによる福音書 には “そのとき、イエスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。神の国はあなたがたのものである。”(ルカによる福音書 6:20)と記録されました。 このお言葉を単純に解釈して経済的に貧しい人が天国に入るようになるというふうに解釈しないようにしなければなりません。
天国に入るということは他に言って救いを得るというのです。 救い得る道は一つだけです。 イエス様を信じるだけで救いを得ます。
そうするからここで ‘貧しい人’の根源的な意味は ‘心が貧しい人’を示します。 経済的な貧乏が心を貧しくする場合に当たるお話です。 経済的に富裕な人よりは貧しい人が心が貧しくなりやすいことは事実です。 しかし必ずそうなことではないです。だから経済的貧乏が心を貧しくならせたらさいわいになります。 それでは ‘心が貧しい人’に関して詳しくよく見ます。

第一、心の貧しい人は自分には義がないのを悟ってイエス様によってくださる神様の義を頼ります。

人々は自分が罪人という事実を自分の良心ですべて分かっています。 “私は神様の前でも罪がない。” と言える人はこの世の中に一人もいないです。 もしそんな人がいたら “すべての人が罪を犯した。” とおっしゃった神様を嘘つく方で見なす罪をもっと犯すようになるのです。 人々は罪の問題を解決するためにさまざまな方法を試みています。 そのすべての方法を二つに大別することができます。 その一つの方法は自分の罪を隠蔽しようと思うのです。 慈善、修養、苦行、教養から自分を選り分けて自分の罪を隠蔽して良心の呵責を撫摩させて見ようといつわりでむなしい努力をします。 他の一つの方法は神様の哀れみを受けるために祭壇を積んでお供えを差し上げるのです。 これは神様がアダムに啓示なさったのです。 ところでカインは地の所産をお供えにして神様に差し上げたし、アベルは羊の初子とその油で差し上げました。 神様がアベルとそのお供えは受け入れてカインとそのお供えは受け入れなかったです。 その理由はアベルは罪人の罪をあがないする救世主に対する信仰でお供えを差し上げたが、カインはこのような信仰なしに差し上げたからです。人類歴史の中にあらゆる人々がカインの祭祀を踏襲しています。 人間が研究して作った宗教は神様から外面にあうだけでなく偶像崇拝というもっと大きい罪を作るのです。
神様は堕落した人間を救いしようとあがないの計画を立ててこれを啓示なさいました。 そんなの一方モセを通じて律法をくださいました。 律法をくださった理由はこのようです。 人間が守らなければならない律法が何やら分かるようになさった次に人間はどんな努力をしても神様がくださった律法をすべて守ることができないという事実を悟らせて、結局は私たちの罪をあがないしたイエス様を信じて迎接するようにしようとするのです。 聖書に記録されるのを “罪というのは、律法以前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪として認められないのである。” (ローマ人への手紙 5:13)“ なぜなら、律法を行うことによっては、すべての人間は神の前に義とせられないからである。律法によっては、罪の自覚が生じるのみである。”(ローマ人への手紙 3:20) しました。 律法がなければ人々は自分たちが犯法したということが分からないです。 分からなかったと言って罪にならないのではないです。 しかし神様が律法をくださったから人々が犯法した事実が現われるようになってまた神様の律法をすべて守るのが不可能であるということが分かるようになりました。 こういうので律法は人間の無能と無力を徹底的に現わしてくれます。
律法によって自分が罪人であることと無能で無力が分かるようになって歎息するようになれば心が貧しくなります。 こんな人がイエス様のあがないの恵みによって罪の赦しを受けるようになる福音をきけば感激してイエス様に出るようになります。 神様が願うことは私たちの心が貧しくなって “私が神様に罪を犯しました。 神様の震怒と審判を受けて滅亡するしかなくなりました。神様父よ、私を受け入れてください。” として悔い改めるのです。 この悔い改めの核心が私たちの罪をあがないしたイエス様を自分の救主に信じて迎接するのです。 そんなにすれば神様が悔い改める人を迎えてくださって神様の子という身分を得させてくださって天国の宴に参詣させます。 天国は心が貧しくなった人にくださる企業です。 天国はイエス様によってくださる神様の義を全面的に頼る人だけが入って行く所です。

第二、心の貧しい人は自分が所有して享受するすべてのものが全面的に神様の贈り物と悟って感謝しながら生きて行きます。

心の貧しい人は自分が神様が命じた家令であり、管理者というのが分かってそこに適当な姿勢に生活します。 家令は自分が持っている地位や権勢や物質が自分のものでなければを確かに分かりました。 心の貧しい人は自分が所有して享受するすべてのものが神様の物で神様の贈り物であることが分かりました。 だから自分が持つものをどのようにすると神様を嬉しくするはずなのかを思案します。
心が貧しければすべてのものを過分に思います。 その何も彼には尋常とかささいなのがないです。 そして神様が恵みからあたえたものなどの内容を深く刻んで味わうので彼の腹の中で感動と喜びの泉がいつも湧き出ます。 そして神様がくださったすべてのものを不思議に思って深くありがたさを感じます。 心が貧しければ享受することができる幸せが無限に多いです。 心が貧しければないより持ったことを推し量りながら満足に思います。 神様がくださったことを推し量りながら感謝するように思って満足します。
貧しい心には天国の喜びと平安と幸せの込められる席が用意されます。 無心にした位喜びと感謝と幸せが満たされます。 感激と喜びのない理由は所有がないのためではなく心が貧しくないからです。 その心に我執と貪欲が一杯であるからです。 心に貪欲の一杯な人は常に不平を言って恨みながら暮します。 たくさん持っても感謝することができないです。 持ったのが少なければ不満が一杯です。 そしてこの世を地獄のように生きて行きます。 一方に心が貧しくなればいつも喜んで凡事に感謝する生活をするようになります。

第三、心の貧しい人は天国で受けるようになる賞を望んで温柔で謙遜な姿勢に神様の仕事に力をつくしながら生きて行きます。

心の貧しい人は自慢しないです。 信仰の本質を喪失して正体性を失くした教会では次のように信じて教えます。 “聖書は幾多の経典の中の一つであるだけである。 聖書は神様のお言葉ではなくて記録した人々が自分が思って分かることを文で現わしたのである。 聖書に記録された天地創造、イエス様の童貞女からの誕生と復活と天に昇りそして幾多の奇跡とは実際の事実ではない。 聖書を記録した者が神様の偉いを言おうと思う意図でそんなに書いたのである。 救いの道は一つだけだと教えることは誤ったのである。 そんな教えは神様の能力と主権を制限しようとすることに違わない。 イエス様の外にも救世主がたくさんいる。”
心の貧しい人はこんなに聖書に違った理論を受け入れないです。 聖書に違った学問を判断の基準にしないです。 聖書に記録されたお言葉を信仰と生活に絶対標準にします。 そして聖書のお言葉どおり信じて教えてお言葉どおり暮すのに力をつくします。 そして心の貧しい人は謙遜な態度で神様の仕事に力をつくしながら生きて行きます。 使徒パウロは “兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。”(ピリピ人への手紙 3:13,14) しました。 彼はコリント教人に “だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである。” (コリント人への第一の手紙 15:58) しました。 目標を上向き調整してずっと神様の仕事に力をつくして神様がくださる賞を慕うのが心が貧しい自分の考え信仰姿勢です。

“「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。” 極めてありがたくて恵まれたお言葉です。 心の貧しい人は神様の義を贈り物でもらって天国の民になります。 心の貧しい人は喜びと感謝で充満する心の天国を享受しながら暮すようになります。 心の貧しい人は天国で受けるようになる賞を望んで温柔で謙遜な姿勢に神様の仕事に力をつくしながら生きて行きます。 聖徒の皆さんはいつも心が貧しくて心が貧しい者にくださるさいわいを皆享受するように願いします。